

## 高橋孝信教授 業績一覧

### (略歴)

1951年茨城県水戸市生。東京大学文学部を卒業後、同大学院時代の1979年から1982年までの2年4ヶ月インド・マドゥライ大学に留学、1985年から1988年まで3年半オランダ・ユトレヒト大学に留学、1989年にユトレヒト大学博士号を取得。1991年より四天王寺国際仏教大学助教授、1996年より東京大学人文社会系研究科助教授、1999年から同教授。

## 業績

### I. 著書

1. *Poetry and Poetics: Literary Conventions of Tamil Love Poetry*, unpublished doctoral dissertation at the University of Utrecht, 1989, ix+340pp.
2. *Tamil Love Poetry and Poetics*, E.J.Brill, Leiden/New York/Köln, 1995, xiv+256pp. (revised edition of 1)

### II. 翻訳

3. 『ティルックラルー—古代タミルの箴言集』(訳注), 平凡社・東洋文庫, 1999年, 333頁.
4. 『エットウトハイ—古代タミルの恋と戦いの詩』(訳), 平凡社・東洋文庫, 2007年, 345頁.

### III. 研究論文

5. 「近代の記録にみる南インドのバラモンの宗教組織について」『南アジア農村社会の研究』4, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1979年, 21-31頁.
6. 「タミル古典文学の基礎的研究—恋愛文学の術語: *Kuṟuntokai* の詞書から—」『西南アジア研究』22, 西南アジア研究会, 1984年, 3-25頁.
7. 「*Tolkāppiyam* の成立について—タミル最古の文典の年代論—」『西南アジア研究』31, 西南アジア研究会, 1989年, 20-37頁.
8. 「『古きカーヴィヤ』—タミル最古の文典 *Tolkāppiyam* の名の由来—」『印度学仏教学研究』第38巻第2号, 1990年, 809-813頁.
9. 「タミル古典文学の理論と実際—恋愛詩の一テーマを中心に—」『東方學』第七十八輯, 東方學會, 1990年, 126-138頁. (第11回平成4年度東方学会賞受賞)
10. 「Parattai: タミル古典恋愛文学の一登場人物」『南アジア研究』第2号, 日本南アジア学会, 1990年, 77-95頁.

11. 「タミル古代の文人たちのサンガ—伝 Nakkirar の注釈をめぐって—」『東洋文化研究所紀要』第 114 冊，東京大学東洋文化研究所，1991 年，87-132 頁。
12. 「タミル最古の文典の基礎研究 (1)—*Tolkāppiyam* 諸本の詩節の対応—」『東洋文化研究所紀要』第 115 冊，東京大学東洋文化研究所，1991 年，65-119 頁。
13. 「タミル古代の結婚：ガンダルヴァ婚との関係をめぐって」『仏教文化』学術増刊号第 6 号，東京大学佛教青年会，1991 年，1-25 頁。
14. 「牛捕り祭—タミル古代の婿選び—」『南アジア文明の展開と重層構造』，東海大学文明研究所，1991 年，61-85 頁。
15. 「古代ドラヴィダの神観念—ムルガン神の憑依—」，辛島昇編『ドラヴィダの世界—インド入門 II』，東京大学出版会，1994 年，54-65 頁。
16. 「南インドのアーリア化とカースト的再編」，山崎元一・佐藤正哲編『叢書カースト制度と被差別民，第 1 巻，歴史・思想・構造』，明石書店，1994 年，147-172 頁。
17. “A Comparative Word-list of Tamil, Kannada and Malayalam, prepared by T. Takahashi, T. Iemoto, H. Yamashita, J. Takashima, K. Machida and M. Minegishi”, *A Computer-Assisted Study of South-Asian Languages* (Annual Report on CIIL-ILCAA Joint Research Project 5), ed. by Tsuyoshi Nara, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 1995, pp. 81-149.
18. “Bull-Baiting Festival in Ancient Tamil: Its Relation to the *Svayamvara* Type of Marriage”, *History and Society in South India*, ed. by Mizushima, T. and Yanagisawa, H., Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 1996, pp. 1-13.
19. 「乳房の値段—タミル古代の花嫁料—」『東方学会創立五十周年記念 東方学論集』，東方学会，1997 年，1361-1370 頁。
20. “The Treatment of King and State in the *Tirukkuraḷ*”, *Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture* 74, *Kingship in South Indian History*, Tōhō Gakkai (Institute of Eastern Culture), Tokyo, 1998, pp. 1-19.
21. “The Treatment of King and State in the *Tirukkuraḷ*”, *Kingship in Indian History* (*Japanese Studies on South Asia No. 2*), ed. by N. Karashima, Manohar, New Delhi, 1999, pp. 38-62. (上記 20 の改訂版)
22. 「タミル文学への手引き」『江島恵教博士追悼論集 空と実在』，春秋社，東京，2000 年，523-538 頁。
23. “From Soft Shoulders to Soft Skin, with the Progress of Religious Feeling in Tamil Society”, *The Way to Liberation: Indological Studies in Japan*, Vol. I (*Japanese Studies on South Asia No. 3*), ed. by Sengaku Mayeda, in collaboration with Y. Matsunami, M. Tokunaga and H. Marui, Manohar, New Delhi, 2000, pp. 281-289.

24. 「古写本発見と写本ブローカー」『印度学仏教学研究』第 50 巻第 2 号, 2002 年 3 月, 1-9 頁.
25. 「誤った王権行使によるパーンディヤ王の死」『木村清孝博士還暦記念論集 東アジア仏教—その成立と展開』, 春秋社, 東京, 2002 年, 641-656 頁.
26. “Before Grammar: Issues in Reading Some Classical Tamil Texts”, *Kōlam* (Electric Journal of the Institute of Indology and Tamil Studies, University of Cologne; <http://www.fas.nus.edu.sg/journal/kolam/VOLUMES/kolam9&10/inhalt0910.html>), Vol. 9 & 10, Köln, 2003.
27. “Tolkāppiyam Poruḷatikāram and Iraiyaṇār Akapporuḷ : Their Relative Chronology”, *South-Indian Horizons: Felicitation Volume for François Gros on the occasion of his 70th birthday*, ed. by Jean-Luc Chevillar and Eva Wilden, Institut Français de Pondichéry/ École Française d’Extrême-Orient, Pondicherry, 2004, pp. 207-217 (Publications du Département d’Indologie-94).
28. 「タミル古代恋愛文学の奥書の起源」『万葉古代学研究所年報』第 3 号, 万葉古代学研究所, 橿原, 2005 年 3 月, 157-167 頁.
29. 「男女の愛を模した神への祈り—タミル・バクティの場合—」『日本佛學曾年報—佛における祈りの問題—』第 70 号, 2005 年, 17-30 頁.
30. 「文法以前—古典テキスト解釈の諸問題—」『インド哲学仏教学研究』第 13 号, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部・インド哲学仏教学研究室, 2006 年 3 月, 73-86 頁.
31. 「プラムは「雑歌」か—タミル古代文学のジャンル分け—」『万葉古代学研究所年報』第 6 号, 万葉古代学研究所, 橿原, 2008 年 3 月, 215-228 頁.
32. 「「耕す」とは「殺す」こと? —タミル文化とジャイナ教の伝播—」『印度哲学仏教学』第 23 号, 北海道印度哲学仏教学会, 2008 年, 276-294 頁.
33. 「古代タミルの塩の道」『万葉古代学研究所年報』第 9 号, 万葉古代学研究所, 橿原, 2011 年 3 月, 135-144 頁.
34. “Jain Authorship in Tamil Literature: A Reassessment”, 『インド哲学仏教学研究』17, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部・インド哲学仏教学研究室, 2011 年 3 月, 1-12 頁.
35. “Is Clearing or Plowing Equal to Killing?: Tamil culture and the spread of Jainism in Tamilnadu”, *Bilingual Discourse and Cross-Cultural Fertilisation: Sanskrit and Tamil in Mediaeval India*, ed. by Whitney Cox and Vincenzo Verigiani, Institut Français de Pondichéry/ École Française d’Extrême-Orient, Pondicherry, 2013, pp. 53-67/ 466p. (Collection Indologie-121).
36. 「象の滝—直訳と翻訳の間で—」『奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教学論集』, 佼成出版社, 東京, 2014 年 3 月, 205-213 頁 (1156 頁).

37. 「詩作の場，発表の場—「声の文化」と「文字の文化」との関係で—」『万葉古代学研究所年報』第12号，万葉古代学研究所，梶原，2014年3月，105–110頁。
38. “A New Interpretation of the ‘Sangam Legend’ ”, *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 63, No. 3, Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, Tokyo, 2015, pp. 1174–1182.

#### IV. 報告書

39. 「タミルの奪格」『インド諸言語のための機械可読辞書とパーザの開発』（平成9年度～平成11年度科学研究費補助金・基盤研究(A)(2)研究成果報告書：研究代表者，ペーリ・バースカララーオ），2000年3月，129–138頁。
40. 「古代タミルの塩の道」『南インド・タミル地域の社会経済変化に関する歴史的研究』（平成9年度～平成11年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書：研究代表者，水島司），2000年5月，137–146頁。
41. 「文法以前—古典テキスト解釈の諸問題—」，平成10年度～平成14年度科学研究費補助金・特定領域研究(A)118・「古典学の再構築」研究成果報告集II・A01「原典」班研究報告，2003年3月，91–101頁。

#### V. その他

42. 『帝国書院ワールドマップ・インド』（南インド部門日本語訳），帝国書院，1979年；同改訂版，平成4年。
43. 「タミル文学」，早島鏡正博士還暦記念『仏教・インド思想辞典』，春秋社，1987年，393–395頁。
44. 「カピラル」などタミル文学に関する10項目，『世界文学小辞典』，新潮社，1990年。
45. 『都市の顔・インドの旅』（坂田貞二，内藤雅雄，白田雅之氏との共編著），春秋社，1991年，xii+355+xv頁，執筆部分：195–200頁，206–210頁。
46. 「1990年の回顧と展望—南アジア古代—」『史学雑誌』第100編第5号，史学会，1991年，287–290頁。
47. 「タミル語」『朝日ジャーナル』編『世界の言葉』，朝日新聞社〈朝日選書43〉，1991年，34–35頁。
48. 「ドラヴィダ文学」など8項目，『南アジアを知る事典』，平凡社，1992年。
49. 「タミル文学に描かれた自然」『春秋』第338号，春秋社，1992年，20–22頁。
50. ドラヴィダ文学（タミル，カンナダ，テルグ，マラーヤラム文学）の諸作品・文学事項についての69項目，『集英社世界文学大事典』（全6巻），集英社，1996年～1998年。
51. 「ラーマヤナと南インド」，金子量重・坂田貞二・鈴木正崇篇『ラーマヤナの宇宙—伝承と民族造形』，春秋社，1998年，57–77頁。

52. 「「古典文学」それとも「古代文学」, (平成 10 年度～平成 14 年度科学研究費補助金・特定領域研究「古典学の再構築」)『ニューズレター』第 5 号, 2000 年 1 月, 38-9 頁.
53. 「自然を愛したタミル人」『週刊朝日百科・世界の文学 115・インドの文学 I』, 朝日新聞社, 2001 年, 12-150～151 頁.
54. 「民族を超えた愛国詩人」『週刊朝日百科・世界の文学 116・インドの文学 II』, 朝日新聞社, 2001 年, 12-178～12-181 頁.
55. 「タミル文字」, 「マラーヤラム文字」, 河野六郎・千野栄一・西田龍雄編著『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』, 三省堂, 2001 年 7 月, 582-588, 943-946 頁.
56. ドラヴィダ文学 (タミル, カンナダ, テルグ, マラーヤラム文学) の諸作品など 40 項目, 『簡約版 世界文学事典』, 集英社, 2002 年 2 月.
57. Assessment of Dr. Eva Wilden's Habilitation Thesis, 2003.3.
58. 「故上村勝彦理事長・業績功績紹介」『仏教文化』第 43 号, 東京大学仏教青年会, 東京, 2003 年 12 月, 73-79 頁.
59. 「声の文化とインドの文字 (Oral Culture and Indian Writing)」『文化資源學』第 2 号, 文化資源学会, 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室, 2004, 21-28 頁.
60. 「インド語学・文学関係」『東方學會報』NO. 87 (特集=第 37 回国際アジア・北アフリカ研究集会), 東方学会, 2004 年, 21-23 頁.
61. 「タミル古典文学の世界」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史 3 南インド』, 山川出版社, 2007, 64-68 頁.
62. (学会消息)「国際研究集会「二言語による相互思想伝達ならびに文化交差による豊饒化—インド中世のサンスクリット語文化とタミル語文化」」『東方學』第一一九輯, 東方學會, 東方学会, 2010 年 01 月, 180-187 頁.
63. (書評) Iwao Shima, Teiji Sakata, and Katsuyuki Ida, eds., *The Historical Development of the Bhakti Movement in India*, 『宗教研究』第 86 卷第 1 輯 (第 372 号), 日本宗教学会, 2012 年 6 月, 127-131 頁.
64. 「古代南インドの塩の道」『旅のはじまりと文化の生成』, 大学教育出版社, 2012.